

二つの国家寺院

天武と持統の寺院

(上) 本薬師寺跡(南から撮影)
(左) 藤原宮と本薬師寺(榎原市藤原京資料室模型)
本薬師寺の伽藍は中世以降に失われたとみられますが、金堂や東西両塔基壇は地元の方々により大切に守られてきました。

藤原京の時代、大官大寺を筆頭に飛鳥寺、川原寺、そして薬師寺の4つの寺が国家寺院(官寺)とされました。このうち飛鳥寺を除いた3寺は天皇発願の寺院でした。『日本書紀』によると、「薬師寺」と呼ばれる本薬師寺は、680年に天武天皇が鸕野讃良皇后(後の持統天皇)の病氣回復を願って建立したとされます。686年、天武天皇が崩御した後も持統天皇により工事が進められました。『続日本紀』には698年に完成し、僧を住まわせたとあります。

藤原京では、朱雀大路を挟んで左京に大官大寺、右京に薬師寺が国家と都の鎮護を担う二大官寺として、計画的に配置されました。

平城京へ移る

710年の平城京遷都にあわせて、官寺である薬師寺も平城京へ移りました。現在の奈良市西ノ京町にある薬師寺です。移転後は平城京の薬師寺と区別するため、藤原京の寺院は本薬師寺と呼ばれるようになりました。現・薬師寺と本薬師寺の伽藍が同形・同規模であることから、かつては建物ごと移転したという説もありましたが、現在は本薬師寺西塔は奈良時代の完成であり、建物は残されていたという説が有力となっています。

平城京での移転先は左京の大安寺(大官大寺)、右京の薬師寺と、藤原京での位置関係を保っており、二つの国家寺院は藤原京から平城京へと継承されました。

本薬師寺跡

榎原市

本薬師寺跡は近鉄畝傍御陵前駅から東へ500mほど直進した城殿町の集落内にあります。金堂、東塔、西塔の基壇跡がよく残っています。現在、医王院と呼ばれる寺院建物がある金堂跡には、礎石が当時の位置のまま残されています。また水田の中に土盛り状に残された東西両塔の基壇のうち、東塔基壇上には、塔の心礎と礎石が、西塔基壇上には心礎が残されています。

中門、金堂、講堂が南北直線に並び、金堂と中門の間に仏塔が東西に並び、双塔式の伽藍配置とその規模は、現・薬師寺にも受け継がれています。



本薬師寺跡 金堂基壇に残る礎石群

所 榎原市城殿町
近鉄畝傍御陵前駅下車 東へ500m
近鉄大和八木駅から奈良交通バス
8・51・52・53系統「城殿口」下車
東へ450m



東塔基壇上の礎石と心礎(東から撮影)
塔を支える心柱の礎石には柱孔、その内側に仏舎利(釈迦のお骨)を納める舎利孔がみえます。正面(西側)には畝傍山がみえます。

特集

県民ニュース

奈良を知ろう

暮らしに役立つ

お知らせ

奈良の世界遺産を知ることが
できる冊子を発行しています。

世界遺産ジャーナル 検索